

平成28年度

---

研究出版助成金受給者

---

公益財団法人

日本証券奨学財団

## 平成28年度研究出版助成金受給者名簿

平成28年11月10日  
公益財団法人 日本証券奨学財団

研究出版物タイトル	出版代表者 (著者)	出版形態	助成金額
IR活動における時間軸と外部評価に関する課題 (仮題)	光産業創成大学院大学 光産業創成研究科 准 教 授 姜 理 恵	単著	100万円
プラットフォーム企業のグローバル戦略	筑波大学 ビジネスサイエンス系 教 授 立 本 博 文	単著	100万円
ポスト・ケインズ派経済学 —マクロ経済学の革新を求めて	名古屋大学大学院 経済学研究科 教 授 鍋 島 直 樹	単著	100万円
グリーンスパンの隠し絵 —中央銀行制の成熟と限界	関西大学 経済学部 非常勤講師 村 井 明 彦	単著	100万円
証券事典 (証券経済学会、(公財)日本証券経済研究所 編)	証券経済学会 創立50周年記念事業 準備委員会 委員長 佐 賀 卓 雄	共著	100万円
5 件	—————		500万円

インベスター・リレーションズの現状と課題  
—企業情報開示における時間軸と外部評価の視点から—

---

著 作 者

光産業創成大学院大学 光産業創成研究科 准教授  
姜 理 恵

著書の概要

今日、インベスター・リレーションズ（以下、「IR」）活動は、わが国上場企業に広く浸透している。IR活動は、1980年代後半、米国から日本に伝わり、約30年の歳月を経て現在の形に至る。これまでの経緯を、上場企業の経営者およびIR担当者の対話相手である証券アナリストおよび投資家の存在なくして語ることはできない。資本市場の発展のために欠くことのできないIR活動は、あらゆる市場参加者の努力の賜物として、現在の形まで昇華してきたといえる。

また、IRの学際的研究においては、これまで資本市場研究者達が多様な角度からIR活動を考察してきた。時代の変化とともに変遷するIRの役割に即応する形で、「IRとは何か」「IRを行う意義は何か」「IRが資本市場に与える影響とは」について議論を重ねてきた。

本書では、IRの情報開示に重点を置きつつ、これまでの歴史的経緯と積みあげられた知見を踏まえ、日本企業のIR活動を再考察していく。本書の目的は、日本企業が行うIR活動の更なる進化に寄与するため次なる課題を提示することである。

プラットフォーム企業のグローバル戦略  
—オープン標準の戦略的活用とビジネスエコシステムのマネジメント—

---

著 者 者

筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授

立 本 博 文

著 書 の 概 要

本書はプラットフォーム企業が世界経済で存在感を拡大している現状を背景に、「プラットフォーム企業がグローバルマーケットでどのように競争力を獲得しているのか」「プラットフォーム企業が台頭すると国際的な産業構造にどのような影響をもたらすのか」を解き明かそうとしたものである。

プラットフォーム企業は製品企業と比較して、ネットワーク効果を戦略的に行使する点で独特な競争行動をもっている。先行研究をもとに分析フレームワークを構築した後、携帯電話産業、半導体製造装置産業、パソコン産業、車載エレクトロニクス産業を対象に事例分析・実証分析を行った。

事例分析・実証分析から、プラットフォーム企業の戦略行動（二面市場戦略・バンドリング戦略・戦略的標準化・ハブへのポジショニング・企業間関係マネジメントなど）が明らかになった。さらに、プラットフォーム企業がグローバル市場で台頭すると、新興国企業のキャッチアップを促進し、国際的な産業構造が促進されるということも明らかになった。

ポスト・ケインズ派経済学  
— マクロ経済学の革新を求めて —

---

著 作 者

名古屋大学大学院 経済学研究科 教授

鍋 島 直 樹

著 書 の 概 要

本書の目的は、学説史的展望にもとづき、ポスト・ケインズ派経済学の形成と発展の過程を振り返るとともに、今日におけるその意義と可能性を探り当てることにある。

それにあたっては、学派の知的基盤を築いたケインズ、カレツキ、カルドア、ミンスキーらの原典に立ち返りながら、ポスト・ケインズ派の核心をなしている諸理論の着想源やその展開過程を究明する。

これと併せて、多岐にわたる現代政治経済学の動向に照らしつつ、ポスト・ケインズ派の特質を明らかにしてゆく。

このように、経済学の現在と過去のあいだを往復しながら、これらの経済学が進むべき方向を探っていくところに本書の特色がある。

グリーン스パンの隠し絵  
— 中央銀行制の成熟と限界 —

---

著 作 者

関西大学 経済学部 非常勤講師  
村 井 明 彦

著書の概要

FRB（連邦準備理事会）第一三代議長グリーン스パンの政策を、思想形成、主な論文に関して学術的に明らかにする世界初の試みである。彼の金融政策は1990年代については絶賛を、しかし2000年代については痛罵を浴びた。ところが、なぜ成功し、なぜ失敗したかはいまだ不明確である。彼はロシア系アメリカ人作家ランドに師事し、ケインズ以前の貨幣的経済学の主流学説であるミーゼスの景気循環論をアップデートしたものを1970年代から政策に活用していた。その経緯を組織的に明らかにする。

# 証券事典

証券経済学会、公益財団法人日本証券経済研究所（編）

---

## 著作者代表

証券経済学会 創立50周年記念事業準備委員会

委員長 佐賀卓雄

## 著書の概要

1992年に日本証券経済新聞社から『新版・現代証券事典』が刊行されて以来、この分野では体系的な事典は刊行されておられません。その間に、世界の金融・証券市場は、新たな金融商品の登場と多様化、取引技術の登場と発達・洗練化、新たな金融仲介機関の成長、また中国など新興工業国の台頭と国際経済における地位の向上、そしてグローバルな金融システム危機を契機とした金融規制の見直しなど、金融・証券市場のあらゆる側面において目まぐるしい変貌が見られ、大きく変貌しました。

証券経済学会と（公益財団法人）日本証券経済研究所は、これらの変貌の諸相を踏まえながら、これまで蓄積されてきた研究成果や資料を取りまとめ、大方の利用の便に供することを目的に編集したものであります。